

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地						
YIC京都ペット総合専門学校	平成25年3月25日	村田 忠男	〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27 (電話) 075-371-4044						
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地						
学校法人京都中央学院	平成19年1月22日	井本 浩二	〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27 (電話) 075-371-4040						
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士				
商業実務	商業実務専門課程	動物看護科		平成27年 文部科学省告示第13号	-				
学科の目的									
専門知識・技術を教授するだけでなく、技術教育を通じての人間教育を行うことにより、良識ある社会人として必要な資質を養い、地域社会の発展に貢献できる心豊かなペット業界のスペシャリストの養成を目的とする(教育理念)。具体的には、即戦力ではなく、変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため、就職後も技術を研鑽し知識を蓄え、変わらずに人を癒すことのできる資質を備え、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物を教え育てる。 動物看護科においては、動物病院で必要とされる実践的かつ専門的な技術・知識だけでなく、人と動物の共生社会の実現のために正しい知識と高い倫理観を持つ人材を育成する。さらに、職業人としての使命感を持って、利他の精神で働くことによる社会的意義を感じられる人間力を育成することにも注力し、将来動物看護業界の指導的立場やリーダーとなる人材の育成を目的とする。									
認定年月日	平成27年2月25日								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は単位 数	講義	演習	実習	実験			
2 年	昼間	2,280時間	1,320時間		960時間				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数				
80人	68人	0人	3人	11人	14人				
学期制度	■1学期: 4月1日 ~ 9月30日 ■2学期: 10月1日 ~ 3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率80%以上、ペーパーテスト及び実技 成績: 秀(100-90) 優(89-80) 良(79-70) 可(69-60) 不可(0-59)				
長期休み	■学年始: 4月 1日 ~ 4月6日 ■夏 季: 7月24日 ~ 8月31日 ■冬 季: 12月23日 ~ 1月10日 ■学年末: 3月10日 ~ 3月31日			卒業・進級 条件	出席率: 80%以上 成 純: 60点以上(100点満点) 学費の完納				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者への連絡を密にし、本人との面談や場合によっては保護者を含めた面談を行い、状況把握と指導を行う。都度指導記録を残す。			課外活動	■課外活動の種類 学園祭実行委員、京専各体育大会 等への参加(バレーボール、卓球等)ボランティア活動(地域清掃、献血、留学生交流)、部活動、同好会活動、オープンキャンパスボランティアスタッフ ■サークル活動: 有				
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成31年度卒業生) 動物病院 ■就職指導内容 担任とキャリアサポート室スタッフを中心に、就職ガイダンス(自己分析、企業研究、プレゼンテーション)や個人面談、企業訪問、企業説明会を実施し、希望する企業への就職をバックアップする。 ■卒業者数 23 人 ■就職希望者数 23 人 ■就職者数 23 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成 31 年度卒業者に関する 2020年5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成31年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報)				
中途退学 の現状	■中途退学者 2 名 平成31年4月1日時点において、在学者 52名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者 50名(令和2年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 QU(Questionnaire Utilities)により、学生の学校生活での満足度と意欲、クラス集団の状態を把握し、学生の不適応感について、問題行動として現れる前に発見し対策を立てている。出席不足や授業について行けない学生には補講や再試験等を行う。心の問題に対する個々人への対応は、CTIパーソナリティ診断を利用し、担任、キャリアカウンセラー、臨床心理士が協同し、開発的、予防的、治療的カウンセリングが行える体制としている。				■資格・検定名 種 受験者数 合格者数 統一認定動物看護師 ③ 23人 23人 愛玩動物飼養管理士1級 ③ 20人 20人 動物看護師検定(1級) ③ 12人 12人 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)				
	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待奨学金制度(一般常識、面接、書類審査によりSABランクの特待生を選抜)初年度学費よりS:学費20万円免除、A:10万円免除、B:5万円免除 ・ファミリーサポート制度(YICグループ校の生在学生または卒業生に親、子、兄弟姉妹がいる者n太子初年度学費より5万円免除) ・ひとり暮らしサポート制度(通学困難者で下宿をせざるを得ない者に対し毎月5千円補助) ・就学支援制度(大学・短大・専門学校卒業 & 見込生、社会人経験3年以上あり、本校に入学を希望する者に対し、初年度学費より10万円を免除)				■自由記述欄				
	■専門実践教育訓練給付: 納付対象 ・前年度の給付実績者数:なし								
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 評価団体: 受審年月: 評価結果:								
当該学科の ホームページ URL	URL: https://www.yic-kyoto.ac.jp/pet/								

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係																																							
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針																																							
<ul style="list-style-type: none"> 教育課程編成委員会において、学校の方針・編成に対する企業等による意見・提案をいただき、教育課程の編成をより商業実践的にすべく内容改変あるいは新規導入等の可否を検討する。さらに、企業等による連携授業・教職員の技術研修、学生の実務研修、就職指導等の協力・実施計画等併せて討議する。これらの結果は、基本的には次年度の教育課程編成に適用する。 編成委員会の意見・要請は教育課程の編成に十分生かすものの、最終的には学校の教育理念に沿ったものであることを前提に、編成した教育課程は最終的に校長認可の上実施する。 																																							
(2)教育課程編成委員会等の位置付け																																							
<ul style="list-style-type: none"> 機関企業等からの提言・意見を反映し、職業実践的な教育を行うための、教育課程編成における諮問機関である。 学校運営から独立した機関であり、理事会直結の諮問機関とする。 臨時委員会は、各種検定資格の内容変更・新技術の導入・業界の新しい動向により教育課程編成を変更・追加が必要になった場合などに委員の要請により開催する。必要に応じ当該関係者の意見を聴取することもある。 																																							
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">令和2年4月1日現在</th> </tr> <tr> <th>名前</th><th>所属</th><th>任期</th><th>種別</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柴山 隆史</td><td>公益社団法人滋賀県獣医師会 会長</td><td>平成31年4月1日～ 令和3年3月31日</td><td>①</td></tr> <tr> <td>森 尚志</td><td>公益社団法人京都市獣医師会 会長</td><td>平成31年4月1日～ 令和3年3月31日</td><td>①</td></tr> <tr> <td>新谷 嘉成</td><td>一般社団法人ジャパンケネルクラブ 近畿ブロック協議会 副会長</td><td>平成31年4月1日～ 令和3年3月31日</td><td>①</td></tr> <tr> <td>村田 忠男</td><td>YIC京都ペット総合専門学校 校長</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>飛田 隆</td><td>YIC京都ペット総合専門学校 教務課長</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>山根 大助</td><td>YIC京都ペット総合専門学校 内部監査(IR準備)室 室長</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>細田 元一</td><td>学校法人京都中央学院 本部長</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>				令和2年4月1日現在				名前	所属	任期	種別	柴山 隆史	公益社団法人滋賀県獣医師会 会長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	①	森 尚志	公益社団法人京都市獣医師会 会長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	①	新谷 嘉成	一般社団法人ジャパンケネルクラブ 近畿ブロック協議会 副会長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	①	村田 忠男	YIC京都ペット総合専門学校 校長			飛田 隆	YIC京都ペット総合専門学校 教務課長			山根 大助	YIC京都ペット総合専門学校 内部監査(IR準備)室 室長			細田 元一	学校法人京都中央学院 本部長		
令和2年4月1日現在																																							
名前	所属	任期	種別																																				
柴山 隆史	公益社団法人滋賀県獣医師会 会長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	①																																				
森 尚志	公益社団法人京都市獣医師会 会長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	①																																				
新谷 嘉成	一般社団法人ジャパンケネルクラブ 近畿ブロック協議会 副会長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	①																																				
村田 忠男	YIC京都ペット総合専門学校 校長																																						
飛田 隆	YIC京都ペット総合専門学校 教務課長																																						
山根 大助	YIC京都ペット総合専門学校 内部監査(IR準備)室 室長																																						
細田 元一	学校法人京都中央学院 本部長																																						
※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。																																							
<p>①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)</p> <p>②学会や学術機関等の有識者</p> <p>③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員</p>																																							
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期																																							
年間開催数 2回																																							
(開催日時)																																							
<p>第1回 2019年5月22日 15:15～17:00 第2回 2019年11月20日 13:30～15:30 第1回 2020年8月26日(予定) 第2回 2020年11月中旬～12月上旬(予定)</p>																																							
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況																																							
教育活動:																																							
<ul style="list-style-type: none"> 簡単な計算、文章、ITスキルはもう少し欲しい。Powerpointでこれを作つておいてということが出来ない。語学力も欲しい。海外の方が来られた際に道案内等が出来るとなお良い。 →一番の課題は授業に取り入れた際の学生のレベル差である。 また、教員が必要性を感じていないことも課題である。 語学等日常的に学ぶきっかけを学校でつくる必要がある。 国家資格化に伴い動物看護師のスペシャリストとなるための取り組みは何かあるのか。 今後は卒業生のレベルが問われてくる。 →施設要件、カリキュラムが確定しなければ具体的な取り組みを進められない。2020年度からは入試制度を変更し、入学生の見直しを図る。 院内実習に関して、やる気のある学生とそうでない学生がいる。 実習に送り出す機関として最低限の知識・マナーを習得させてほしい。 プロフェッショナルを育てる学校であるならば人間力もふまえて事前学習をしっかりとさせてほしい。 →学内での指導は当然であるが、実習先としても徐々に段階を踏んで学生と一緒に育てるに理解・協力をお願いしたい。 院内実習の内容に関してはカリキュラムが確定し次第再度見直す。 																																							

学修成果:

- ・35歳までのキャリアを考え、長く続けてもらえる人材を育成してほしい。
→责任感も踏まえ、人間力の育成に力を入れる。教員の力量も求められるが業界との連携が必要である。
卒業して終わりではなく卒業後も 業界と連携して育成を継続したい。

教育環境:

- ・飼育動物を持ち帰ることで学校外の時間に動物を観察することは非常に重要。
普段の生活から動物に気を使える学生を育てる良い機会になる。
しかしながら学生にとって過度のプレッシャーにならないよう気をつける必要がある。
持ち帰り1泊、引渡し時に申し入れをするという流れを徹底することが必須。
→2019年の年末年始から飼育動物を学生に持ち帰らせ、様子を見させる取り組みを実施する。
普段の変化を観察させる。
- ・院内実習を動物病院で実施するという案が出てるが実際問題として非常に厳しい。9割は学校での実施が望ましい。
→内容の精査が必要である。動物病院と学校の更なる連携も必要。共に養成機関を作っていただきたい。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係**(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針**

企業等が求める職業実践的な人材像と学校が送り出す人材像とのギャップを埋め、卒業生の質を保証し本校の教育理念を果たすために企業等との連携は必須である。ギャップは社会の変化、技術進歩に学校が追い付いていないところにあると考える。企業等との連携により、教職員の教育研修に注力するとともに、企業等による連携授業、業界研究(インターンシップ)等積極的に行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

- ・企業等と協定書を締結し、連携授業として動物病理学、動物感染症学等の授業や、校外(動物病院等)での動物臨床検査学実習等を行っている。学習内容、評価などは期初に当該企業等との打ち合わせにより決定したシラバスに沿って行っている。
- ・インターンシップは学校とインターン生受け入れ企業と個別に覚書を結び、学生のレポート⇒企業側のコメント⇒学校のコメント・評価⇒学生へのフィードバックにより学修成果を評価し、その結果を企業に報告することにより、科目の成果、改善・改革を図っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
動物薬理学 I	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床及び副作用について学び、動物の疾病的診断や治療にどのように用いられるかを理解する。	さわべ動物病院
動物看護総合実習 II	学校で修得した知識や技術が動物看護業務を実践する上で必須であることを理解する。 飼い主対応や処置室等での臨床症例を見学し、可能な範囲で体験学習する中で、円滑な人間関係を築くうえで必要な技術や能力を修得する。	公益社団法人 京都市獣医師会
アニマルヘルパー 講座	独立開業を目指す場合やトリマー、、ドッグトレーナー、ペットショップ、ペットホテル等どの職業に就いても必要となる訪問サービスを学び身につける。	一般社団法人 日本ペットサービス研究会

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係**(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針**

- ・学生・保護者・地域社会(企業)に対して本校の卒業生の質を担保するためには、教職員の教育力の向上が必須である。「学校法人京都中央学院教職員研修規程研修等」に基づき、研修等には①担当分野の実務、②インストラクショナルスキル、③学生指導・就職指導、④学校運営についての研修を計画的に行う。教育研修は、学校関係者すべてに関わるものであり、自己啓発を含め積極的に支援する。年度研修は研修計画に沿って行い、スポット研修は隨時行う。

(2)研修等の実績

研修名「動物病院のための新人スタッフセミナー」(連携企業等:インター)
期間:2019年4月18日(木曜日) 対象:動物業界に携わる者
内容:
・動物病院で働くキホン、最速の仕事の覚え方、飼主接遇のキホン

研修名「WJVF第10回大会」(連携企業等:公益社団法人日本動物病院協会、一般社団法人日本臨床獣医学フォーラム)
期間:2019年7月14日(日曜日) 対象:獣医師・動物看護師、トリマー、学生
内容:内科学(PU/PD総論 他)

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「第41回京都学校教育相談研究大会」（連携企業等：京都府立学校教育相談研究会・京都市立中高連合会カウンセリング科他）

期間：2019年8月6日（火曜日）

内容：

- ・『分かち合う心の進化』
- ・分科会：ストレスマネジメント（予定）

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「WJVF第11回大会」（連携企業等：一般社団法人日本臨床獣医学フォーラム、公益社団法人日本動物病院協会）

期間：2020年7月（未定） 対象：動物業界に携わる者

内容：未定

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「京都学校教育相談研究大会」（連携企業等：京都府立学校教育相談研究会他）

期間：2020年8月（未定） 対象：教職員

内容：未定

研修名「新任教員研修会」（連携企業等：京都府専修学校各種学校協会）

期間：2020年11月（未定） 対象：新任教員

内容：未定

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」で示された企業等と具体的な連携の視点から検証した自己点検評価について、企業と学校関係者からなる「学校関係者委員会」の評価・助言・提言を受ける。学校評価委員会においては、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに職業実践的な教育活動に適したものであるかなど、当該年度の重点項目を中心に意見等をまとめる。結果を反映した実行計画を作成し、次年度の重点項目を定め、学校教育・学校運営を行い、本校の概念である「地域社会の発展に貢献する、地域の皆さんための教育機関」の実現に注力する。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	1 建学の精神・教育理念・教育目的・教育目標
（2）学校運営	7 管理運営 9 改革・改善
（3）教育活動	2 教育の内容
（4）学修成果	4 教育目標の達成度と教育効果
（5）学生支援	5 学生支援
（6）教育環境	3 教育の実施体制
（7）学生の受入れ募集	5 学生支援
（8）財務	8 財務
（9）法令等の遵守	7 管理運営
（10）社会貢献・地域貢献	6 社会的活動
（11）国際交流	-

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

教育理念・目標（人財育成）

・35歳時点でのキャリアを考えるのは非常に良い設定である。モデルケースの確立が出来れば現場で働いている人にとっても非常に役に立つ。学校、臨床現場ともに取組まないといけない課題である。

→ 35歳時点で中核的専門人材として活躍するキャリアステップを描いてはいるが、モデルケースの確立までには至っていないので進めていきたい。

教育環境

・現場は人手不足の状況である。YICは動物看護師資格の国家資格化をうけて養成施設として学校を運営していくのか。
→ 国家資格養成施設としての学校を目指して運営していく。

国際交流

・自動車分野での留学生は多いがペット分野でも取り組んでみてはどうか。国として留学生にシフトしているのでそういう情報を発信するだけでも面白いかも知れない。HPの英語表記等。
→ 現時点でも留学生が数名在学している。自国に帰ってペット関連の仕事をするという。また、趣味としても注目されている。海外の富裕層に対して学校PRを計画していきたい。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
柴山 隆史	公益社団法人滋賀県獣医師会 会長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	学会
森 尚志	公益社団法人京都市獣医師会 会長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	学会
新谷 嘉成	一般社団法人ジャパンケネルクラブ 近畿ブロック協議会 副会長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	学会
丸山 帆夏	ダクタリ動物病院 京都医療センター	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/>

公表時期:2020年 6月 1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨に則り、原則として、ガイドラインが推奨する内容(提供する情報の項目例)全てについて、ホームページ上にて情報提供する。教育活動、その他学校運営の状況、これらの結果は、企業、在学生、卒業生、保護者等関係者にホームページなどに公開・提供していることを、学校便り、オープンキャンパス、案内資料、企業説明会などで広く周知し、理解を得る。企業との連携による職業実践教育を行うためには、企業に対して本校の理念、教育活動の理解が前提であり、具体的な連携を計画する際の基本資料として提示・説明することで企業の協力が得られるものと考える。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科(コース)等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・就学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校の評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程動物看護科) 2020年度												
分類			授業科目名	授業科目概要				授業方法	場所	教員	企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択		配当年次・学期	授業時数	単位数	講義					
○			動物形態学	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化について学ぶ基盤を確立する。	1前	120	4	○		○		○
○			動物繁殖学	繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する	1後	30	1	○		○		○
○			動物病理学	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。	2前	30	1	○		○		○
○			動物薬理学Ⅰ	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床及び副作用について学び、動物の疾病的診断や治療にどのように用いられるかを理解する。	1前	30	1	○		○		○○
○			動物薬理学Ⅱ	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床及び副作用について学び、動物の疾病的診断や治療にどのように用いられるかを理解する。	1後	30	1	○		○		○○
○			動物感染症学Ⅰ	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を修得する。 感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。	1前	30	1	○		○		○○
○			動物感染症学Ⅱ	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を修得する。 感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。	1後	30	1	○		○		○
○			動物感染症学Ⅲ	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を修得する。 感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。	1前	30	1	○		○		○○
○			動物看護学概論Ⅰ	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。	1前	30	1	○		○		○
○			動物看護学概論Ⅱ	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。	1後	30	1	○		○		○
○			動物医療関連法規	動物や獣医療に関連するさまざまな法規について学び、社会における動物看護の役割を理解する。	1前	30	1	○		○		○
○			公衆衛生学Ⅰ	環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。	1前	30	1	○		○		○

○		公衆衛生学Ⅱ	環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。	1 後	30	1	○			○		○
○		動物人間関係学	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的および社会学的側面から理解する。	2 前	30	1	○			○		○
○		動物福祉・倫理	動物愛護や動物福祉(アニマルウェルフェア)およびその基礎となる生命倫理の考え方について学ぶ。	1 後	30	1				○		○
○		動物行動学	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。	1 後	30	1	○			○		○
○		伴侶動物学Ⅰ	伴侶動物の歴史や品種、飼育方法およびエキゾチックアニマルの生態について学ぶ。	1 前	30	1	○			○		○
○		伴侶動物学Ⅱ	伴侶動物の歴史や品種、飼育方法およびエキゾチックアニマルの生態について学ぶ。	1 後	30	1	○			○		○
○		産業動物学	産業動物の歴史や品種、飼養管理法、および畜産業など社会との関わりについて学ぶ	2 後	30	1	○			○		○
○		実験動物学	産業動物の歴史や品種、飼養管理法、および畜産業など社会との関わりについて学ぶ	2 後	15	1	○			○		○
○		野生動物学	日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物について学ぶ。	2 前	30	1	○			○		○
○		動物内科看護学	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液などについて理解する。	1 前	30	1	○			○		○
○		動物外科看護学	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。	1 後	60	2	○			○		○
○		動物臨床看護学総論	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。	1 後	30	1	○			○		○
○		動物臨床看護学各論Ⅰ	様々な疾患の病態整理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。 各々の機能障害をもつ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を修得する。	2 前	60	2	○			○		○
○		動物臨床看護学各論Ⅱ	様々な疾患の病態整理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。 各々の機能障害をもつ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を修得する。	2 後	60	2	○			○		○
○		動物臨床栄養学Ⅰ	5大栄養素やその代謝などの基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。	1 前	30	1	○			○		○
○		動物臨床栄養学Ⅱ	5大栄養素やその代謝などの基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。	2 前	30	1	○			○		○

○		動物臨床検査学Ⅰ	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を習得する。	1 前	30	1	○			○		○
○		動物臨床検査学Ⅱ	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を習得する。	1 後	30	1	○			○		○
○		動物医療コミュニケーション	日常健康管理に関する飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について学ぶ。	1 後	30	1	○			○		○
○		動物形態機能学実習Ⅰ	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。	1 前	30	1			○	○		○
○		動物形態機能学実習Ⅱ	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。	1 後	15	1			○	○		○
○		産業動物学実習	産業動物の歴史や品種、飼養管理法、および畜産業など社会との関わりについて学ぶ	2 後	15	1			○	○		○
○		動物内科看護学実習Ⅰ	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	1 前	30	1			○	○		○
		動物内科看護学実習Ⅱ	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2 前	60	2			○	○		○
○		動物臨床検査学実習Ⅰ	検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。	1 前	30	1			○	○		○
○		動物臨床検査学実習Ⅱ	検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。	1 後	60	2			○	○		○
○		動物外科看護学実習Ⅰ	手術準備(動物・手術器具)、術中・術後管理、麻酔準備や麻酔管理や麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	1	30	1			○	○		○
○		動物外科看護学実習Ⅱ	手術準備(動物・手術器具)、術中・術後管理、麻酔準備や麻酔管理や麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2 前	60	2			○	○		
○		動物臨床看護学実習Ⅰ	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を取得する。	2 前	15	1			○	○		
○		動物臨床看護学実習Ⅱ	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2 後	30	1			○	○	○	
○		動物看護総合実習Ⅰ	動物病院の概要を理解する。 動物病院内の動物看護師の実際の業務や獣医師・動物看護師との連携を理解する。 学内でのカリキュラム、各教科と実際の業務との関連を知ることで、必要性や目的を理解し意欲の向上を図る。	1 前	45				○	○		○

○	動物看護総合実習Ⅱ	学校で修得した知識や技術が動物看護業務を実践する上で必須であることを理解する。 飼い主対応や処置室等での臨床症例を見学し、可能な範囲で体験学習する中で、円滑な人間関係を築くうえで必要な技術や能力を修得する。	2前	90	2			○ ○		○ ○
○	動物看護総合実習Ⅲ	総合的な動物看護の実務能力を修得するための指導を受け、動物看護師実務能力を修得する。 動物看護師としての役割や責任についての認識を深める。	2前	45	1			○ ○		○
○	キャリアデザインⅠ	個人ワーク・グループワークを行い、就職活動において、実践で活用できる内容を身につけることができる。	1前	30	1			○	○	
○	キャリアデザインⅡ	個人ワーク・グループワークを行い、就職活動において、実践で活用できる内容を身につけることができる。	1後	30	1			○ ○	○	
○	キャリアデザインⅢ	就職活動において実践的に活用できる内容を学ぶことができる。	2前	30	1			○ ○	○	
○	ボランティア活動Ⅰ	京都動物愛護センターが実施している子猫の「一時預りボランティア」に授業として参画し、今まで学んできた動物看護の知識を用いて、その子猫のために何ができるかを考え、実践することで社会貢献に寄与する。	1後	30	1			○ ○	○	
○	ボランティア活動Ⅱ	京都動物愛護センターが実施している子猫の「一時預りボランティア」に授業として参画し、今まで学んできた動物看護の知識を用いて、その子猫のために何ができるかを考え、実践することで社会貢献に寄与する。	2前	30	1			○ ○	○ ○	
○	損害保険学	ペット保険及び損害保険募集人に関する内容を覚える。 アニコム損害保険の合格レベル、知識を覚える。	1前	15	1			○ ○	○	
○	基本IT技術Ⅰ	パワーポイントを使用したスライド作成	2前	30	1			○ ○		○
○	基本IT技術Ⅱ	コンピュータを利用した事務作業やビジネスで必要な文書の作成や表計算について学習。 必要な技術を効率良く行えるよう繰り返し練習する。	2後	60	2			○ ○		○
○	イベントプロデュース	具体的なイベント活動の企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人基礎力につける。 イベントを企画する段階から時間軸のプロセスを経て、「最終的な目的達成」のために最高のパフォーマンスを発揮できるよう、イベントのノウハウや、プランニング方法等を実際のイベント運営を通して、具体的に学び、これからイベントの方向性を探っていく。	1後	15	1			○ ○ ○ ○		
○	社会常識	社会常識について学ぶ。日々の対人関係を円滑にするための基本的スキルの習得。文書読解・作成能力検定3級合格のために必要な知識の習得。	2後	30	1			○ ○ ○ ○	○	
○	ビジネス文章力Ⅰ	硬筆検定4級取得を目指した授業。文字を書くという私たちの日常生活での最も基本的な教養を身につける。	2前	30	1			○ ○ ○ ○	○ ○	
○	コミュニケーション学	社会常識について学ぶ。日々の対人関係を円滑にするための基本的スキルの習得。サービス接遇検定合格のために必要な知識の習得。	2前	30	1	○		○ ○		○

○	プレゼンテーション学	社会人に必要なプレゼンテーション能力。この授業ではビジネスにおけるプレゼンテーションの考え方や心理学的、実践的なプレゼンテーションテクニックを学び、動物看護師としてその知識・技術を活用できるようになることを目標とする。	2後	30	1	○			○		
○	フィットネス	近年、若者の体力・運動能力が低下傾向にある。その結果として肥満や高血圧・高脂血症などの将来の生活習慣病につながるおそれがあり、また運動不足によって豊かな人間性や創造力・主体性といった社会人に必要な能力の低下等、様々な問題があると文部科学省も危惧している。この授業では基礎体力の向上や今までに経験した事のないニュースポーツを通して、運動の重要性を伝え、学生たちの『運動の習慣化』を計る。	1後	30	1			○	○		○
○	動物飼育実習 I	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。	1前	30	1			○	○		○
○	動物飼育実習 II	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。	2前	30	1			○	○		○
○	動物飼育実習 III	正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。	2後	30	1			○	○		○
○	動物内科看護学実習 III	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2後	60	2			○			○
○	統一試験対策 I	動物看護師統一認定試験に合格するための勉強ができるようになる。	2前	30	1			○	○		○
○	統一試験対策 II	動物看護師統一認定試験に合格するための勉強ができるようになる。	2後	30	1			○	○		○
○	アニマルヘルパー	独立開業を目指す場合やトリマー、、ドッグトレーナー、ペットショップ、ペットホテル等どの職業に就いても必要となる訪問サービスを学び身につける。	1前 or 2	60	2	○			○	△	○ ○
○	ビジネス文章力 II	硬筆検定3級取得を目指した授業。文字を書くという私たちの日常生活での最も基本的な教養を身につける。	2後	30	1			○	○		○
○	日本文化	季節の花を生け、生きてる花の表情を捉え、花の命の奥深さを学ぶ。伝統芸術に触れ感性を磨き、自己を知る。いけ花の実践、芸術表現、花の色彩、伝統行事、京の祭の花	1前・2前	60	2			○	○		○

合計	68科目	2,430単位時間(81単位)
----	------	------------------

卒業要件及び履修方法		授業期間等			
必須科目76単位(2,280時間)以上の履修		1学年の学期区分			
履修方法:ペーパーテスト、レポート、実技テストによる評価		2期			
(留意事項)					
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方について△を付すこと。					
2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。					